

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	2年 英語活動（9月）
③言語活動の充実を目指した授業づくり	京都市立向島秀蓮小中学校 2年担任 西井 慶

## 言ってみよう！こんな表現（言語活動の充実のための絵本の活用）

2年生の英語活動では、外国語学習への動議付けを高めたり、単元最後のコミュニケーション活動を充実したりするために、単元を通して絵本の活用を進めています。

U1「How many クイズをしよう」では、単元最後のコミュニケーション活動で、自分が作成した果物や動物などの数について、相手意識をもって、たずねたり答えたりします。相手意識をもってやり取りをするためには、自信をもって数をたずねたり答えたりできることが大切と考えて、表現に慣れ親しめるように絵本の読み聞かせをしました。



使用した絵本は「Tiny Boppers（Apricot社）」です。初めに読んだときに子どもたちは絵本の内容に引き込まれて、自然と1～10の数に触れました。その後、繰り返し読むうちに、本に出てくる表現を言ったり、教師の問いかけに答えたりして、何度も1～10の数の言い方に慣れ親しんでいきました。

単元を通して読み聞かせをすることで、自信をもって数やたずね方の表現を言うことができ、単元最後のコミュニケーション活動では、相手にわかるような工夫を考えることができました。



絵本の読み聞かせでは、書いてある内容をそのまま読むのではなく、子どもたちとやり取りをしながら慣れ親しませたい表現を聞かせています。絵本の読み聞かせだけでなく、チャンツやアクティビティなどで変化をつけて、短時間で集中できるような慣れ親しむための活動を意識して進めています。



### 指導助言・アドバイスコーナー

低学年でもし、英語活動を行うのであれば、本実践のように、絵本の読み聞かせや、歌ったりチャンツを言ったりする活動が、子供の発達段階にあっていると、私は思います。また、低学年でそれらの活動を通して、色や形、数など子供が身近な語を何度も聞いたり言ったりして、慣れ親しんだ語彙数を増やしておくことが、中学年の外国語活動につながると考えています。さて、絵本の読み聞かせの際に大切なことは、ページにある文をそのまま読んで聞かせるだけでなく、西井教諭のようにページにあるいろいろなものについて、子供とやり取りをしたり、子供と一緒に絵本のセリフを言うよう促したりして、読み手が絵本の読み聞かせを子供と楽しむとともに、子供を絵本の世界に誘うことが大切です。

（文部科学省 視学官 直山 木綿子）